

ドル/円相場のトレード戦略

【ドル/円 週足】



■中期展望

本年年初に展望では、2018年の世界経済環境に関しては2017年の延長線上にあり、大きく変化する要因は見当たらず、通貨の強さも2017年の構図をおおむね引き継ぎ、ドル/円に関してはレンジ内で安定的に推移する可能性が高いと考えてきました。

堅調な米景気、FRBの利上げ観測の継続はドルを下支えし、緩やかなドルの上昇が期待できるため、大幅なドル下落のリスクは低いように考えられるものの、2017年12月のFOMCで発表されたドットチャートによると2018年は3回の利上げが予想であり、その点から考えると米国の長期金利の上昇幅は限られたものとなる可能性が高く、ドルの上値も限りがありそうで、昨年の高値水準が上値目標としてきました。

しかし、1月の相場は、年初に113円台の高値を付けて以降、ドルはじり安となり1月後半には108円前半まで値を下げました。

さらに2月に入ると、トランプ米大統領が洗濯機と太陽光パネルに対してセーフガード（緊急輸入制限）を発動することに署名し、貿易摩擦に対する懸念が拡大したことやムニューシン米財務長官が「弱いドルは貿易面で米国の利益になる」と発言したことなどをきっかけにドル安の流れが強まり、さらに米金利の急上昇と米株の急落を背景としたリスク回避姿勢の強まりから円買いが強まり、下値めどとしてきた昨年安値107円水準を下回り104円台にまで突入しました。

しかし、その後は良好な米国経済を背景にドルの買い戻しが進み110円台を回復する動きとなって

ドル/円相場のトレード戦略

います。

本年はレンジ相場が継続するという見方に変化はなく、想定レンジを100円～115円程度と考えていますが、年初の高値から3月安値の50%戻し水準が111円60銭水準、61.8%戻しが113円20銭水準であり、短期的にはこれらの水準が上値めどとして意識されそうです。

■短期展望

先週は、イタリア政局混迷を受けた欧州金融危機への警戒感が高まり、リスク回避の円買い圧力が強まったことで108円11銭の安値を付けました。

その後は、米朝首脳会談が開催される可能性が高まり、北朝鮮を巡る地政学リスクは後退しドルは値を戻し、週末の米雇用統計が予想よりも良好だったことを受け109円台後半まで反発しました。今週は、欧州の政局不安の継続や米国の各国との貿易摩擦激化懸念などがドルの上値を抑える要因となるでしょう。

しかし、先週の米雇用統計が示すように米国経済は堅調であり、北朝鮮の地政学リスクが後退していることで大きなドル売り圧力もないものと思われます。

したがって、今週も108円～110円を中心とした揉み合い相場が継続する可能性が高いでしょう。